

2024年度フリーランス・栄養関連企業等職域 管理栄養士・栄養士育成のための全国リーダー研修会

開催日：2024年12月8日（日）13：00～17：00

会場：Web開催

1. 開会挨拶

（公社）日本栄養士会フリーランス・栄養関連企業等推進委員会が2024年7月に発足したことの報告が推進委員会委員長の望月ひとみ氏よりあった。

政策・職域推進事業部長の諸岡歩氏からは、令和4年5年度の国民栄養調査の結果より、社会環境の変化と人々のニーズが多様化・複雑化しているため、どのような情報を適切に受け取り、それをどう生かしていくか、そして国民の身体状況や栄養・食生活に関する状況をしっかり把握し活動していくこと重要であると話された。併せて本年4月より健康日本21（第3次）で健康経営の推進について明文化され、フリーランス・栄養関連企業等の会員が力を発揮することが望まれた。また、日本栄養士会が職能団体として国民に認められ、その存在価値を上げていくという意味合いで政策職域事業部が設置され、様々な政策課題の解決に向け、効果的な政策提言を行い、そして実効的な栄養活動を展開することが重要である。そのため6つの職域が連携強化に努める必要があると説明された。最後に2つの職域が統合した相乗効果を発揮していただきたいと結ばれた。

2. 事業報告 委員長の望月ひとみ氏より報告

1) 2024・2025年度フリーランス・栄養関連企業等推進委員会委員について

今回の研修会内容を各都道府県栄養士会の職域で共有そして咀嚼、発展のお願い。今後は実態の把握を行いながら、どのような政策課題があるのかを今後検討していくと話された。

- ・委員の紹介
- ・『基本方針』とその実施事項についての説明

2) 2024年度事業報告（案）

・全国リーダー研修

2024年12月8日（日）13:00～17:00

Web会議

・全国矯正栄養士研修会

2025年1月24日（金）12:00～17:00

Web会議

・全国研修会

2025年2月2日（日）13:00～16:30

Web会議

・事業推進委員会

第5回は、2025年1月に調整中

・「日本栄養士会雑誌」“トップランナーたちの視点”、“管理栄養士の活動最前線”に掲載予定

3) 2025年度事業計画

2024年度の研修を踏襲し、ブラッシュアップして実施予定

4) 「フリーランス・栄養関連企業等事業推進委員会委員選任等に関する手続規程」の一部変更について承認された。

5) 会員数について 本年11月末において前年よりは増加も、2020年をピークに減少のため、今後は都道府県別に目標数を設定し、どのような対策を実施していくかを考える。

3. 講演1『政策的に事業を推進するための職域再編について』

（公社）日本栄養士会

代表理事副会長 鈴木志保子氏

1) 日本栄養士会の政策とは

日本栄養士会は研修を提供する団体ではなく、政策を集約する団体であり、政策とは国民のために、管理栄養士・栄養士が実施する方針や方策のことで、これを具現化するために政策職域推進事業部において提案実行すると定められた。職域は政策に関し、管理栄養士・栄養士が実施する法案を方策するのが最も大きな仕事

になった。政策実行に当たっては、各事業部と連携する。

2) 日本栄養士会の役割

国民のそれぞれの自己実現のため、管理栄養士・栄養士が価値を高め、必要とされる場に配置できるように政策を提案し、その実現のために活動すること。

3) 「フリーランス・栄養関連企業等」の職域

この職域では診療報酬や介護報酬のように直接政策に関わることは少ないが、すべての政策において具現化する場合に関わる職域である。この職域の発展が、管理栄養士・栄養士の今後の発展の度合いであるとも言える。特定保健指導がこの職域の政策のテーマになる。しかし、国が求めているのは、プロセスの評価ではなく、成果の評価であるため、大胆なアプローチと専門職のプライドを持って実施していく必要がある。成果評価を試されているのがこの職域であることを理解する。

4. 講演2 『フリーランス・栄養関連企業等 職域の事業の方向性』

(公社) 日本栄養士会フリーランス・栄養関連

企業等事業推進委員会委員長 望月ひとみ氏

健康経営に取り組んでいる大規模法人部門は523社、中小規模部門では17316社で、中小規模では公共事業の入札条件になるなどのメリットがあるため、今後フリーランスが中小規模の健康経営に管理栄養士・栄養士が関われる部分が多くあるのではないかと考えている。

5. グループワーク

テーマ1 「職域統合による課題・期待」

テーマ2 「相乗効果から活躍の場を広げる」

新たな戦略 テーマ1からテーマ2を検討

上記の内容を、都道府県をランダムに10グループに分けグループワークを行った。統合しているところ、していないところ様々で情報交換を行うことで互いを知り、繋がりをもつことができるや、健康経営や栄養ケア・ステーションへの依頼が増えると会員増につながるのではないかなど建設的な話し合いができて非常に勉強になった。

(文責 地活 栗林美貴子)